

2.1.5.3 生態系

1) 陸域

陸域における動植物の生息・生育環境は、植生などと密接な関係があり、これらにより陸域における動植物の生息・生育環境としての機能が異なっているものと考えられる。

川辺川流域の陸域における動植物の生息・生育環境を図 2.1.5.3-1 に示す。

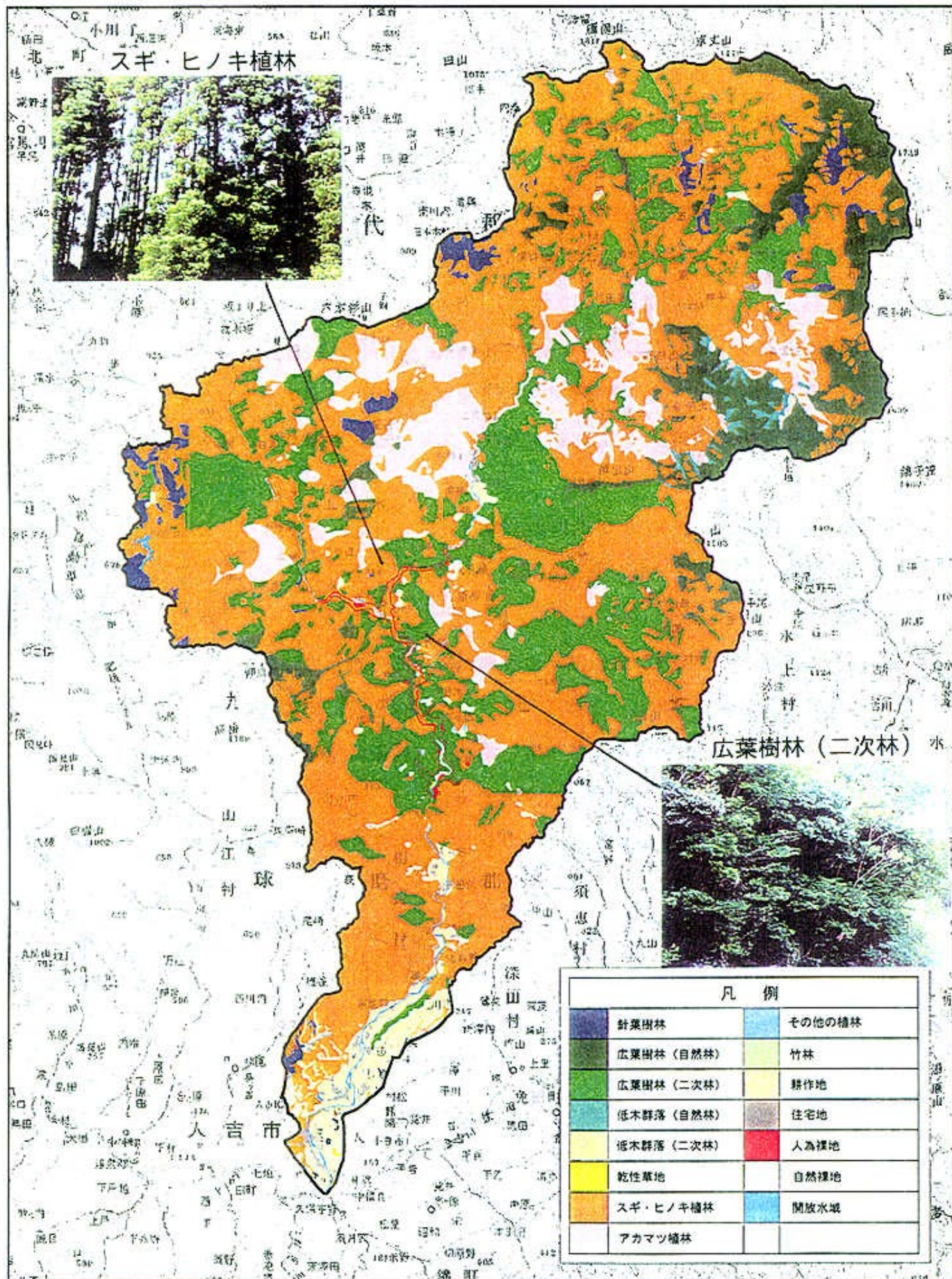
流域全体ではスギ・ヒノキ植林の面積が最も大きな面積を占めており、次いで広葉樹林(二次林)、広葉樹林(自然林)、アカマツ植林となっており、これらが川辺川流域における陸域の典型的な動植物の生息・生育環境と推定される。

川辺川ダム周辺では、動植物の生息・生育環境として、アラカシなどを主要な構成種とする「広葉樹林(二次林)」及び「スギ・ヒノキ植林」が大きな面積を占めている。

「広葉樹林(二次林)」は山地の山腹斜面に分布し、アラカシ、コジイ、シロダモ、ベニシダ、ジャノヒゲなどが生育し、ニホンザル、エナガ、ウグイス、トカゲなどが生息する。

「スギ・ヒノキ植林」は山地の山腹斜面に広く分布しているが、とくにスギ植林は沢や窪地沿いに分布し、アオキ、キツタなどが生育し、ニホンザル、ヒヨドリ、ウグイス、トカゲなどが生息する。いずれも、過去に伐採、植林等の人為的な影響を受けた環境であり、流域に広く見られる。

食物連鎖の観点から見ると、アラカシ、コジイ等の植物及びそれらを餌とする昆虫類が食物連鎖の底辺を支えている。その上位に、鳥類、哺乳類が生息している。クマタカ等の猛禽類は食物連鎖の上位に位置し、広い行動圏を有している。



注)「第2回・第3回 自然環境保全基礎調査 熊本県 現存植生図(環境庁、昭和56年、昭和60年)」、平成3年10~11月撮影の空中写真、平成4年度の建設省の現地調査結果を基に作成

図 2.1.5.3-1 陸域の生息・生育環境